

あした彩の活動報告

「あした彩と岡山北西ロータリークラブの合同勉強会」

■環太平洋大学（爽志会）

〇2月23日 あした彩勉強会（FaceBookより転載）

2月23日(火)に行われたあした彩の勉強会に参加しました。

今回の勉強会では被害者遺族の方に対してのことだけでなく遺族から見た加害者への感情や行動を知ったり、私たちが加害者に対してはどう向き合うべきなのか、更生することができるのかなどを考えさせられたり、もし家族など自分の身近に性犯罪が起きた時に自分はどうのようなサポートができるかを話し合いました。

私はこれからもあした彩・爽志会の活動を通して被害者支援の大切さや今回のような性犯罪だけでなく犯罪自体の減少に繋がるような活動を続けていきたいと感じました。



■岡山商科大学（つぼみ）

〇2月23日 あした彩勉強会（商大Blogより転載）

2月23日に、国際交流センターにて岡山北西ロータリークラブの主催で、「あした彩（※岡山県下の各大学等に所属する犯罪被害者支援サークルの連絡会）と岡山北西ロータリークラブとの合同勉強会」を実施しました。岡山北西ロータリークラブさんには、あした彩の活動にご賛同いただき、様々な形で応援していただいています。また、会には先日商大にも講演に来ていただいた加藤裕司さんをゲストとしてお迎えしました。

今回の勉強会では、まず、先日NHKで放送され、加藤さんも出演された『事件の涙』を視聴しました。現在では、詳細が開示されることのない死刑囚の執行される間際の言葉などを知ることができ、貴重な体験となりました。その中で、加藤さんの「被害者、加害者どちらかが支援に関して優遇されるのではなく、平等な立場で扱われる世の中になってほしい」というお言葉が印象的でした。

次に、本学の法学部2年猪野が犯罪被害者支援サークル「つぼみ」を代表して性犯罪に関する講義を行いました（他大学の先輩方やロータリーの皆さんの前で緊張して頭が真っ白になったそうですが・・・）。

刑法の改正、現行法や判例、社会の課題、現状行われている被害者への支援について説明しました。

その中で、全国一律での支援が容易ではないこと、被害者が裁判や捜査に協力するために何度も被害状況を説明しなければならず、その都度つらい状況を思い出させる「セカンドレイプ」の実情などが浮き彫りになりました。

そして、この講義をもとに「家族が性犯罪の被害にあい、被害届を出すかどうかで迷っている。自分ならどう声をかけサポートするか」というテーマでグループディスカッションを行いました。被害届を出すよう説得するのか、本人の意思を尊重するのかという2つの意見から大学生としての視点、職業的視点、親としての視点などの様々な視点から議論を行いました。各班から様々な意見が飛び出し、充実した議論になりました。

各大学の専門を異にする学生達や、ずっと年上のロータリークラブの皆さんと、自分だけでは絶対思いつかない視点から議論が出来ました。自分達にももっと出来ることがたくさんあるのではないかと、改めて考えさせられました。



今回の勉強会が今年度の最後の活動となりました。

来年度は、これまでの活動に加えて、新たな活動にも挑戦していきたいと思います。